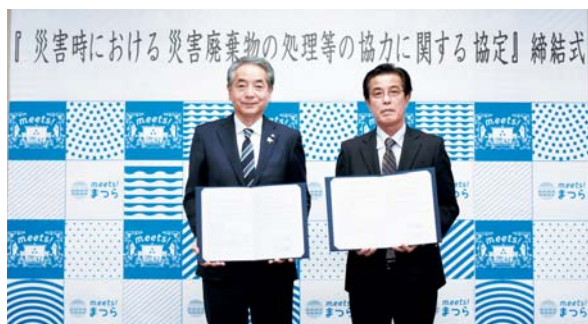


大きな災害に備えて

(一社)長崎県産業資源循環協会(吉村純男会長)と市は11月30日、災害時における災害廃棄物の処理等の協力に関する協定を締結しました。

この協定は、大規模な災害が発生した際に大量の廃棄物が発生することを想定し、迅速かつ適正な廃棄物処理を行うための体制を平時から整備、構築しておくことを目的として締結されました。

同協会の吉村会長は「市民皆さまの安全、安心な生活に貢献できるよう、これからも努めていきたい」と話しました。



松浦産トラフグを堪能

新松浦漁業協同組合は11月29日(いいフグの日)、生産量日本一を誇る松浦の養殖トラフグを身近に感じてもらいたいと、市内全小中学校の児童・生徒にトラフグの唐揚げを振る舞いました。

この日は、福島養源小学校の3年生19人が市内の生産者である青木勇さんからトラフグの特徴や養殖方法、フグの中でも1番の高級魚として取引されることなど説明を受けました。

子どもたちは「身がふわふわして美味しい」と嬉しそうに地元の水産物を味わいました。



こだわりの「つきそば」が完成

調川中学校は12月3日、地域を盛り上げたいと、生徒たちが開発した「つきそば」の完成を市長に報告しました。同中学校は、昨年から「つきそば」の開発に取り組み、デザイン、販売、宣伝を行う会社「TMエンタープライズ」を起業。市内で生産された食材を使用したこだわりの一品が出来上がりました。

この日は、社長を務める岩崎瑞姫さんと生徒会長の久保川一さんが市役所を訪れ、岩崎さんは「給食の焼きそばをヒントに、独自にブレンドしたソースを使うなど工夫しました」と話しました。



収穫への感謝を表す稲舞を披露

志佐町白浜免では12月2日、白浜神社の秋の大祭が行われ、収穫への感謝を表す「稲舞」と来年の豊作を占う「的打ち」が奉納されました。

「稲舞」は深見楓太くん(4歳)が、収穫した稲穂の束を担ぎ、中川明宏宮司と一緒に舞を奉納。その後、稲穂は集まった約30人に配られ、豊作を祈願しました。「的打ち」では藁で作られた直径約50cmの的をめがけて中川宮司が6本の矢を放ちました。中川宮司は「今年は的を射るまでに少し時間がかかった。来年は人の手がかかる一年になる」と話しました。



まちの話題

志佐川の野鳥を観察

まつうら自然の会（和田優子会長）は12月5日、日本野鳥の会会長崎県支部の馬田勝義さんを講師に招き、「野鳥の楽しみ方・見分け方」と題した講演会、野鳥観察会を開催しました。

会員は、馬田講師から野鳥の鳴き声や習性、野鳥の見つけ方、観察のコツなどの説明を受け、その後志佐川沿いの遊歩道に移動。双眼鏡や図鑑を用いてカモやサギなど13種類の野鳥を観察しました。

馬田さんは「松浦のように川がある場所に野鳥は集まってくる。散歩しながら、ぜひ観察してみてください」と参加者に声をかけていました。



木の温もりを実感

市の木育推進事業「木育ミニキャラバン」が11月中旬から12月下旬にかけて開催され、たくさんのおもちゃが、市内の保育園や子育て支援施設を巡回しました。

じこう保育園・慈光幼稚園（森有紀子園長）では12月3日、先生が届けられた箱からおもちゃを取り出し保育室へ運び入れると、園児たちからは歓声が上がリ、珍しい積み木やパズル、木琴などに仲良くふれあいながら、木の香りや、温もりをたっぷりと感じて遊びました。



親睦を深めハツラツとプレー

令和3年度松浦市高齢者スポーツ大会が11月9日と12月12日の2日間で開催されました。

この大会は、60歳以上の人を対象に親睦を深め、健康寿命の延伸や生涯スポーツの普及を図るために実施されています。

今年度は、2競技に140人が参加。グラウンド・ゴルフ競技では県ねりんピックの代表を懸けた熱戦が繰り広げられ、バウンドテニス競技では軽快な動きでボールを打ち返すなど、スポーツを通して交流が行われました。

上位の結果は12月に掲載しています。



願いを込めてしめ縄を奉納

笛吹神社の例大祭が12月6日に行われ、地域住民によって手作りされた大しめ縄が奉納されました。

大しめ縄作りは、膨大な作成時間を要する作業で、毎年地区の住民が協力しあい、江戸時代から守り続けられている伝統行事です。

この日は、^{うどまぶし}烏渡伏地区、^{ひがくし}笛吹・日隠地区の住民約30人が稲わらを持ち寄り、長さ約9m、重さ約250kg、太さ約80mmの大しめ縄が完成。鳥居横にあるマキの木の間に張り、収穫への感謝と来年の無病息災、五穀豊穡を祈願しました。

